

# 郷土繁栄の夢遠い高遠町

# 伊那民報

## 特性が活かされ

## 豊かさが実感できたか

「合併」を  
問い直す  
特集

発行：日本共産  
党伊那市委員会  
伊那市狐島3879  
TEL：72-2465  
HP：jcp上伊那



寂しくなった高遠支所

郷土繁栄の夢がごとごとく破れています。7年半前の合併はいったい何だったのでしょうか。

2006年に伊那市・高遠町・長谷村が合併し新伊那市になりました。閉町に合わせ配布された閉町記念誌「高遠町のあゆみ」の巻頭言で当時の町長(故)伊東義人氏は「合併は新たな街づくりの出発点であり、これまで育んできたそれぞれの特性を活かし素晴らしい新市を築いていくことが出来る」と確信している。また当時の

議長、原浩氏は「現在の生活水準を損なう事なく、それぞれの地域の歴史・文化・個性を尊重したうえで地域が持続的に発展し住民が豊かさを実感出来る合併だ」と言い切りました。

### 不便な本庁通い 文化行事も遠くに

しかし現実には、高遠町総合支所職員数は合併当時116名が、現在54名と半数以下に。主な業務数では本庁が280、高遠総合支所は68、その差は212。高遠の住民は手続きの多くを本庁まで行かなければならなくなってしまう。今後さらに、総合支所縮小の可能性もあります。

高遠独自の文化施設であった伊澤修二音楽祭や新宿区との交流事業までも伊那市にもっていかれました。また伊澤修二が「仰之愈高・望之愈遠」と故郷を想い続けた心



高遠にある近代日本の音楽教育の第一人者、伊澤修二の生家

境を無視し伊那市の行事として扱おう方向性には不信感を覚える町民も少なくありません。

合併を戻す事は不可能としても、その地域の歴史・文化を尊重し発展させることは市政においても不可欠ではないでしょうか。将来を見据え住民の声を真摯に受け止め実行する議員の誕生を望む声も高まっています。

### 体育館使用料の有料化など 合併後の主な変化

体育館等の使用は共有化により地元団体使用優先で無料だったのが廃止に。集団検診は旧高遠が国民健康保険加入者無料に対して旧伊那市が有料になっていました。公共下水道の普及と学校耐震化は、合併時、高遠町は100%でした。伊那市は現在も推進中ですので、高遠の住民は今も税金で負担していることとなります。

(次号へつづく)  
(高遠 石川博)

## 地 蜂

夕食時 突然、90歳を越える長年の友人から電話。寝起きは不自由だが頭脳明晰なその方が、堰を切ったように語ったことは、

最近の年金の大減額のことだった。40年も働いて入った現在の年金生活、「限界集落」などと評される農山村で都会生活に疲れて帰ってきた息子たちからさえも頼りにされている。その年金が色々な名目をつけて減らされ続けているという憤慨である。思わず、食事のことも忘れて、30分近くその方と思いを共にした。年金そのものが在職中からの細かな条件もからんで人によって差があり、寄るとさざると「貴方の年金は条件がいい」「私は恵まれない」などと話題になる。実はたいした違いはないのに。しかし、その僅かに「恵まれている」というところを狙って減額を迫られているのが最近の状況。これ一例だが、小さなところで争わされているのが、ばかばかしくなる昨今だ。それでいて「衆参ねじれが解消した」と称する安倍首相が、「意志の力」「強い日本」をテンション高く演説している姿がテレビに映る。高々20数パーセントの対有権者比得票率による代表だと軽んずることはできない。「アベノミクス」景気浮揚への期待、「中韓に油断するな」と憲法改悪をおおられて驚愕する世論が、今の国政の姿をつくりだしているのは事実。現実の自分たちの生活の土台から出発して、国政と地方政治を具体的に貫く矛盾の本質をつかみ出し、「対決」「共同」「対案」の3要素をそなえた運動にみんな足を踏み出したものである。(一也)

# NECラ社 住民訴訟 高裁も住民無視の判決

NECライティング社住民訴訟東京高裁の判決が9月25日にありました。判決は長野地裁での判決を全面的に支持したもので、「NEC問題市民の会」が訴えた、補助金約1億6千万円と土地買収・造成費など約6億7千万円の返還要求は棄却されました。これに市民の会は、「裁判の限界を判断し、最高裁への上告をしない」ことを明らかにしました。

## 不当判決！20億の借金市民に

棄却の理由は、時効である NECラ社と土地売買の契約が成立していない。伊那市議会が1千万円の「解決金」で補助金及び土地代金等の請求権を放棄している。土地売買は伊那市土地開発公社が行ったもので伊那市ではない、など形式的な内容に終始し、極めて不当な判決です。

### NEC問題

や開発公社の解散で、20億円もの借金が伊那市に引き継がれ、市民の負担は1人約3万円にな



口約束で造成した土地の今の姿

ります。また、契約書もなく地方自治法違反のずさんな約束でNECラ社に責任逃れを許した市の理事者の重大な過失も許されるものではありません。

## 反省のない白鳥市長

白鳥市長は「主張が全面的に認められ、大変評価している。今後企業誘致に努め、地域経済の活性化を図りたい」とコメントしています。これは、自らの責任を、何ら反省していない態度です。これでは再び問題を起こす可能性がないとは言えません。同時に、NECの破廉恥な行為を許した市議会の、わずか「一千万円解決金」による議決は、「市民感覚」でもなければ「市民に顔むけできる」ものでも断じてありません。

## 市民の暮らし第一の市政に

「市民の会」は「今後は、権力に追随する裁判でなく、問前にせまった市長選や市議選を通して、市民の暮らし第一の市政の実現に向けて力を合わせ前進を勝ちとりたい」とのコメントを発表しました。

30代の伊藤さんは「悪行を働いても処罰なしとは驚いた。市民運動ではつきりさせたいね」と語っていました。(市川)



署名活動に参加した会員のみなさん

東春近9条の会は、10月9日、4回目の「平和行動」を、これまでで最多の8名の参加で取り組みました。

## 継続は力 = 9条署名行動

4組に分かれて、各人が準備してきた家を訪問。日頃のつながりもあり対話はずみ、「孫が男3人、軍隊に行かされるようなことがあったらイヤ」と快く入会した人や、「春富中学の弁論大会では『平和憲法を守る』という生徒さんの話が光っていた」等の対話の報告が相次ぎました。1時間ほどの行動でしたが、対話は11軒、入会者4名、署名8筆。当日行動に参加できなかった会員からも5筆の署名が寄せられました。

## 権利はたたかい取るもの

### 映画「ベアテの贈りもの」に50人

伊那市内の住民がつくる上映実行委員会は、18日伊那図書館で二回、19日東春近ふれ愛館で「ベアテの贈りもの」の上映会を開催し、約50名が鑑賞しました。

「戦後の女性が活躍している映画を観て、世の中が少しずつ変わっているなと思いました。憲法24条の起草に関わったベアテ・シロタの『毎日の生活に憲法を生かすことを願っています』との最後の呼びかけに、女性の地位向上の取り組みは始まったばかりでは

ないかと改めて知らされました(60代女性)。「戦後、新憲法制定後、女性たちがたかって少しずつ変わっていることがわかった。憲法に書いてあるから自然に男女平等が実現するものではなく、女性たちが必死にたたかいてつぎたことがわかりました(50代男性)等の感想が寄せられました。



ふれ愛館での映画会

# 今こそ、反核平和のたたかいを

## 原水禁世界大会の報告集会を開く

2013原水爆禁止世界大会上伊那報告集会在10月4日開かれ、約60人が参加しました。

今年の世界大会へは上伊那から21人が参加。参加者から大会の様子の写真も交え、感想やこれからの抱負などが報告されました。「戦争や原爆のことを何も知らずに参加して衝撃を受けた。初めて自分のこととして考えた」などの新鮮な言葉に、参加者は反核への思いを新たにしていきました。



開拓団での体験を語る内田さん

報告に続いて記念講演として、東春近の内田

かつ子さんが満蒙開拓団での経験を語りました。内田さんが現地へ渡ったのは、昭和19年4月でしたが、「開拓団」とは名ばかりで現地の人たちの畑を奪って耕作したことから始まり、終戦になって命からがら日本へ帰って来るまでの悲惨な体験に、涙を流しながら聞き入る姿もありました。

飯島光豊後援会は10月13日、マレットゴルフ大会を開催し、42人が参加してプレーを楽しみました。

## 飯島光豊後援会でマレットゴルフ大会



優勝杯返還を受ける飯島議員(右)

ゲーム終了後はJA春富支所に会場を移し、表彰式と慰労会が行われ、焼き肉を囲んで、交流を深めました。(W)

## 窓の市議

### 昭和の暮らしを今に生かす

前沢 けい子

この30年来の私の生活上の最大の関心事は「シンプルライフ」で、持ち物をいかに減らすかだったのだが、10年前に議員に当選してからは持ち物は減るどころか、増加の一途をたどり、物に埋もれて窒息寸前と言つ有様だ。数日前何気なく見たテレビで「昭和の暮らし

を今に生かす」と言う番組があつて、一人の女性が出ていた。彼女は冷蔵庫なし、洗濯はたらいで、電灯は家に三ヶ所のみ、一家4人の月の電気代は500円、生活必需品は手作り、子どもは4時に夕食、7時半には寝てしまつという暮らしをしていた。

そんな暮らしを楽しんでいる彼女を私は感心して見ていたがふと、「やっぱりリアはいらないわ」と思った。忙しすぎて家族とゆっくり会話を楽しむ暇もなく、物は買つて済ませる生活が、果たして豊かと言えるのだろうか。



## 中身のない論文はドイツ語で書こう

(誰も読まないからネ)

建石繁明

4

学者、研究者を名乗るには、現行では学位(x博士の称号)がなければ通用しない、いやな社会になっています。学位を得るためには、それなりの論文数が必要です。論文の数を稼ぐために、かなりの無理を通さなければならぬケースがあるよつです。

研究者として生きていく根本の原理原則は、研究が好きで、課題に対して没頭する姿勢だと思ひます。研究好きの学者で転落した話は耳にしません。好きが第一で、第二、第三はないと思ひます。その研究は何に役立つのかと聞かれます。役立たない研究は原子爆弾を作ること象徴されるのですが、人類の研究心、好奇心を止める方法はありません。

何々のためにする研究には不純な動機が感じられます。ノーベル賞が欲しいからと、データを捏造する人もいます。ES細胞やi p s細胞の研究は世界中の研究者が注視しているのですから、嘘は通用しません。研究者の世界では、政治屋さんのように嘘も方便はすぐに馬脚を現してしまひます。

表題の言葉は、英語が学術論文を書く言語として世界的に通用するよつになりつつある時代の学者の間で囁かれた戯言です。戦時中の学術用語はドイツ語が多かつたのですが敗戦と同時に、その地位を英語に譲り渡してしまひました。私たちも論文は英語で書くのが常識になってしまひます。



# 随想

## 50年党員顕彰を頂いて

山寺区 馬場佐世子

本当に50年たつてしまったんですね。

当時はまだ世間的にあまり認められてはいない？共産党に入ったのはまだ可愛らしい高校生。1962年暮、松島劇場での林百郎さんの講演会を聴きに行ったその年は、長岡を始め箕輪町の農家では白菜が豊作で価格は暴落、豊作貧乏という言葉が出来た時でした。林百郎さんが自分のことのように涙をポロポロと流しながら訴えた言葉は17歳であった私の胸に突きささり、感動し身体がふるえました。

18歳になって入党を勧められた時は何の躊躇も有りませんでした。その年、初の共産党県議に松田晴男さん、総選挙では林百郎さんが当選し、各市町村議も増やし南信中が沸きに沸いた年でもありました。

その後、選挙の度にアナウンサーとして車に乗りました。その頃は成長期で動けば動くだけの成果を得られ、本当に革命が近いと信じていました。特に79年の衆議院選で41議席を勝ち取った時はもう頂天でした。

夫が生前、よく、「忙しくて動けないことと忙しいことを理由で動かないのは違う、後者は怠慢である」と言いました。励まされたのかバカにされたのかわからないが少なくとも前者でありたいと思ってきました。

今はどうなのでしょうかね。若い方達の前で胸を張って「50年よ」という気持ちだけはあります。



# 佳し案内

## 「脱原発」いな金行動

毎週金曜日午後6時～6時30分

いなっせ北側広場

主催 さよなら原発上伊那の会

連絡先 医療生協組合員センター

## みんなでお仕事語ろーぐ

唐沢ちあきwith青年後援会

～みんなでかたりあう青年のつどい～

10月30日(水) 19:00～

場所 カフェ&カイロ有報堂(伊那市)

会費 200円(資料代など)

主催 日本共産党上伊那青年支部

## 三峰川周遊ウォーキング

11月2日(土) 午前9時

東春近榛原河川公園集合

参加費 300円

おにぎり、トン汁、リンゴ付

主催 上伊那医療生協健康づくり委

申し込み先 組合員センター(79-8702)

## 講演「憲法問題と秘密保全法について」

講師 木島日出夫弁護士

11月17日(日) 午前10時半～

西箕輪・羽広荘

主催 日本国民救援会長野県本部南信ブロック

# 刻字

高遠 石川 博



「鮮」

## ゴルフコンペ

11月24日(日) 午前8時より  
伊那エースカントリー

競技方法 新ペリア方式

プレー代 各自負担

参加費 1500円

主催 飯島光豊後援会

連絡先 渡辺(72-4748)

お便り、情報、原稿をお待ちしています。

どんなことでも結構です。

発行元までお寄せください。(編集部)